

ミノカサゴ（カサゴ系）

岩場のかげに身を潜めています。

特に、岩と似た色合いなので、気が付きにくいです。

人が近付いても逃げることはないのですが、背びれや胸びれのトゲには毒腺があるので、触るととても危険です。

※対処法

- ① 目に見える大きなトゲは取り除きます。
ただちに海から上がるようにしましょう。
- ② 40～45℃程度のお湯に患部をつけます。(触って熱くない程度)
ビニール袋にお湯を入れて患部に当てても
60～90分つけましょう。

オニヒトデ

岩場やサンゴのかげに身を潜めています。
サンゴを食べるヒトデとして知られています。
たくさんの棘を持っていて、刺されると棘にある強い毒が注入されます。
トゲは靴やマリニブーツなどの靴底も簡単に通してしまいます。

※対処法

- ①すぐに海から上がります。
- ②目に見えるような大きなトゲは取り除きます。
- ③40～45℃程度のお湯に患部をつけます（痛みが和らぎます。患者が触って熱くない程度）。
ビニール袋にお湯を入れると患部に当てやすいです。
60～90分を目安につけましょう。

ウミヘビ

コブラの仲間が水中世界に適応し、進化したものだといわれているそうです。ウミヘビの多くは強い毒を持っています。好奇心が強く、ウミヘビから近づいてくる場合がありますが、手荒く扱ったりすると危険です。

※対処法

- ① 毒を絞り出しながら、起立・歩行が可能な間に陸へ上がります。
口で吸い出さないこと！
- ② ただちに救急車を呼びます。迷うことなく119

カツオノエボシ

空気袋の下に長い触手を持っていて、風に流されて漂っています。触手には非常に強い毒を出す刺胞があります。浜に打ち上げられた後も、しばらくは毒のある刺胞は健在なので、さわったり踏みつけたりしないようにしましょう。

※対処法

- ①海水で刺胞球や触手を洗い流します。酢は絶対に使わないでください。刺胞が発射されます。真水も好ましくありません。
- ②痛みがある場合は氷や冷水で冷やします。
- ③病院へ。以前にカツオノエボシに刺された経験がある場合にはアナフィラキシーショックを起こす可能性があります。

オニダルマオコゼ

比較的大型のオコゼで、岩の上や砂地にいます。
砂中に潜っていることもあり、また色や形が石や岩に似ている為、知らずに手をついたり、踏みつけたりして刺される事があります。また、比較的浅いところにいる場合もありますので、十分注意が必要です。

※対処法

- ①目に見える大きなトゲは取り除きます。
- ②40～45℃程度のお湯に患部をつけます。（痛みが和らぎます。患者が触って熱くない程度）
- ③ビニール袋にお湯を入れると患部に当てやすいです。
60～90分ほどつけましょう。
- ④刺された時点ですぐに、救急車の出動を要請してください。
オニダルマオコゼに関しては生命にかかわる恐れが高いです。。

ヒョウモンダコ

体長10cmくらいの小さなタコです。普段は比較的地味な感じのときがありますが、相手を威嚇したり、興奮状態にあるときなどは、特にコバルトブルーの鮮やかな輪紋が浮かび上がります。足の付け根にある口でかまれると命にかかわるほどの強い毒が注入されます。

これはフグ毒で有名なテトロドトキシンです。

※対処法

- ①絶対に口で吸い出さず（すこしでも飲み込むと大変危険）、毒を絞り出しながら、起立・歩行が可能な間に陸へ上がります（走ったりすると、毒のまわりが早くなるので注意してください）。
- ②アスピブナンとかエクストラクター、ポイズンリムーバーと呼ばれている市販の吸引器があれば活用しましょう。使い捨て注射器を用いて吸引器を作っておいても活用できます。

ムラサメモンガラ

浅瀬で良く見かけるカワハギの仲間です。

繁殖期の5月頃、攻撃的で岩影に戻ってはこちらを威嚇するような行動をします。

中には噛みついてくるものもいるので、近づかないようにしましょう。

アンボイナガイ

サンゴ礁域に生息する、殻の長さが10cm程にもなるイモガイ科に属する巻き貝です。

アンボイナはその中でも最も毒が強いイモガイで、口の中の歯舌（しぜつ）という矢状の舌で毒を打ち込み、魚を食べます。命にかかわるほどの猛毒で、コノトキシンと呼ばれるイモガイが作り出す毒です。コブラよりもはるかに強い猛毒です。

※対処法

- ①毒を口で吸い出しながら、起立・歩行が可能な間に陸へ上がります。
- ②ただちに救急車を呼びます。迷うことなく119番通報してください。

ガンガゼ

ガンガゼは長く、鋭いとげを持っています。
不用意に手をついたり、足でけってしまうと危険です。
とげは折れやすく、刺されると毒が注入されます。

※対処法

- ①目に見える大きなトゲは取り除きます。
- ②40～45℃程度のお湯に患部をつけます。
(痛みが和らぎます。患者が触って熱くない程度)
- ③ビニール袋にお湯を入れると患部に当てやすいです。
60～90分つけましょう。

ハブクラゲ

5月～10月頃に多く発生し、沖縄周辺の海岸で見られるようになります。カサの部分から長く伸びる触手に刺胞と呼ばれる毒を出す組織が無数についていて、これに触れると強い毒が注入されます。ハブ毒の数倍もあるので非常に危険です。

※対処法

- ①大量の酢を充分にかけます
(酢には刺胞の発射をおさえる効果があります)。
- ②触手をそっとはがします。
- ③痛みがある場合は氷や冷水で冷やします(激しい痛みを訴えます)。
冷やすことによって痛みが和らぐとともに、
毒の活性を抑える働きがあります(毒をおさえる)。
ただし冷やしすぎて凍傷になったりしないように注意しましょう。
- ④病院へ行きましょう。